

▶▶ 株式会社児島織協

選別プロセス改善による解体系廃棄物の 積極的受入でSDGs推進

児島織協は、産業廃棄物の中間処理と収集運搬を主力とする。主な顧客は地場建設会社で、建設現場にコンテナを設置し、8品目ある建設廃棄物を収集し適切に処理する。集めた廃棄物は破碎・分別し、リサイクルや最終処分へと振り分ける。この分別作業を自動化するための選別プラントを2022年に導入。効率化と従業員の負担低減を果たした。

会社概況

繊維くず再生の協同組合から、 廃棄物処理のリーディングカンパニーへ

児島織協は「児島繊維原料協同組合」として1962年に設立された。その名のとおり、もとは地場産業である繊維の会社から出る繊維くずを収集し、自動車シートの中綿の原料として販売する事業を手がけてきた。だが事業としては先細り。組合経営の飲食店での勤務を経て理事に就いた西山隆之代表取締役が事業拡大に着手し建築廃棄物に参入、2021年に協同組合から株式会社へと改組した。今では、廃棄物一元管理を手がけるゼンショーエコロジーや建設・解体工事が主力のアクアコーポレーションなど8社でグループを形成。「廃棄物処理業界を“ホワイト化”しリーディングカンパニーになりたい」（西山代表取締役）。



倉敷市児島小川に立地する本社

事業内容

リサイクル比率向上のカギが分別、 自動プラント導入へ

廃棄物の中間処理では、集めた廃棄物を切断・破碎して分別する。きれいに分別するほどリサイクル原料として販売できる。リサイクルできない残渣は埋め立てなどで最終処分する必要があるが、最終処分場は限られコストも高い。リサイクル比率を高めることが中間処理業にとっては重要だ。

児島織協は繊維くずと鉄、紙のリサイクルを手がけており、建設廃棄物のニーズが高かったことから建設廃棄物の処理に参入した。ただし、中にはさまざまなごみが混ざった混合廃棄物があり、従業員がしゃがんで、手で選別していた。時間がかかり作業環境も悪いため自動選別プラントの導入を決めた。



分別・管理された産業廃棄物

事業成果

混合廃棄物の選別、効率が飛躍的に向上

選別プラントの導入に当たっては、西山代表取締役みずから探してまわり、中山鉄工所（佐賀県武雄市）の吸引選別機「AS1200」を中心に磁選機やベルトコンベヤーを組み合わせたプラントを導入した。混合廃棄物を投入すると、磁選機で鉄などの金属くずを取り除いた後、ふるいにかけて土砂を落とす。次に吸引選別機で紙やビニール、木くずなどを吸い取る。最後に残った残渣から異物を取り除く工程のみを手で行って、最後はがれきが排出される。

このプラントで、以前は1立方メートル当たり5～6人で1時間かかっていた選別作業が、2人で5分と飛躍的に効率が向上。リサイクル率も50%から75%に向上した。今後は混合廃棄物の多い解体系廃棄物の受入量をより増やしていく方針だ。



導入した選別プラント

ワンポイント

作業環境改善で 業界イメージ一新

本社は住宅街の真ん中にあるため、あえて壁を低く外から見えやすい作りにし、不信感をもたれないようにしている。周辺住民の合意を取り付け、インターネットで手続きを調べて廃棄物処分業や廃棄物収集運搬業の許可を自力で取得。従業員の労働環境改善のため、粉塵を抑制する霧の発生装置の設置などさまざまな工夫を凝らしてきた。「廃棄物業界のイメージを一新していきたい」（西山代表取締役）。



代表取締役

にしやま たかゆき

西山 隆之さん

▶▶▶ 会社概要 company profile

設立	1962年	所在地	岡山県倉敷市児島小川6-1-10
資本金	2000万円	T E L	086-472-4912
代表取締役	西山 隆之	F A X	086-472-4969
従業員数	22人	U R L	https://kojimasenkkyo.jp/
売上高	2億8000円(2023年3月期)		